

平成27年度 第2回生活充実講話

平成27年4月20日実施

1 目的

生徒が自らの命を、自ら守る意識を高めるとともに、規範意識の高揚をはかり、交通事故の未然防止をめざす。

2 講師

さとう いつよ

佐藤 逸代さん（あいち交通犯罪死ZEROの会代表）

- ・平成17年7月、交通事故で当時12歳(中1)の娘さんを亡くされた交通事故被害者遺族。
- ・岐阜・愛知・静岡・滋賀・石川・熊本などの中学・高校、企業などで交通事故被害者遺族の思いや命の大切さなどの講演活動を展開中。

3 演題

「尊きいのち」みつめて

4 内容

自動車同士の事故の巻き添えとなって、最愛の娘を失うという非常に辛い経験を切々と語ってくださった。

- ・交通事故は誰にも起こりうることであり、認識することの大切さ
- ・ルールの本当の意味
- ・遺された家族や友人の苦悩
- ・自分の命を大切にすることの本当の意味

命の尊さを生徒の心に訴え、自分自身と向き合うきっかけを与えていただいた。途中会場の至る所で涙を拭う姿も見られ、心に響く講話だった。最後に3年生の富田君が生徒を代表してお礼の言葉を述べ、交通事故防止への決意を新たにされた。



5 生徒の感想

- ・身近な人に今日すぐに「ありがとう」と言おうと決めた。いつ、どんなことが起こるか分からない人生、一瞬一瞬精一杯生きていきたい。（3年女子）
- ・日々を一生懸命生きよう、後悔しない自分でありたいと思った。（3年女子）
- ・自分の命について考えた。毎日をどうやって過ごしているのだろうか、自分を見つめた。ここにいられることに感謝して、今日を大切に生きていきたい。（3年男子）
- ・今の自分を受け入れなければならない。自分の弱さも嫌いなのところも認めたくなくて、乗り越える強さを持ちたいと思った。（2年男子）
- ・「ありがとう」というたった五文字の言葉を、自分の身近な人、大切な人に普段言えているのか、もし突然自分の家族、友人が亡くなってしまったらどう思うだろうか、深く考えさせられる講話だった。大変心に残る話が聞けた。（2年男子）
- ・一瞬で命を落とすことになるかと常に考えながら登下校したいと思った。また、自転車乗っている時の左右確認が最近おろそかになっているので、もう一度交通ルールをしっかりと確認したい。（1年女子）